

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3190100234		
法人名	特定非営利活動法人 タチカワプラザ		
事業所名	グループホームさとこ		
所在地	鳥取市立川町5丁目256-1		
自己評価作成日	令和3年11月1日	評価結果市町村受理日	令和3年12月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いなば社会福祉評価サービス
所在地	鳥取市湖山町東2丁目164番地
訪問調査日	令和3年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

(運営理念)入居者様の人間としての尊厳を守り、家庭的で明るく、楽しく、安心して暮らせる生活を支援し、地域との交流を図ります。
 (生活理念)職員の連携を図り入居者一人ひとりの気持ちを大切に自分らしさを活かした生活が送れるように支援します。
 職員は上記、理念を念頭に置き、家族様、地域の方々の協力を得ながら支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームさとこの事業方針を毎年定められ、全職員が一つになり、その目標を共有し、努力されています。現在は、コロナ禍により、地域の方々と交流が出来ない状況であるが、自警団や近隣の事業所と連携し協力関係を築かれています。また、事業所作成の「利用者一日の流れ」に添って個々を尊重し、利用者に配慮した支援が行なわれていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「運営・生活理念」のホーム内掲示と職員にカードにしたものを渡し、施設のケア目標として共有し、意識して実践に繋げている。	理念は、玄関、共有するホーム内に提示されていた。全職員が運営、生活理念のラミネートされたカードを持ち、ミーティング時に振り返りや確認をされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入。現在はコロナウイルス感染予防の為、敬老会、子ども学園祭りなど地域行事は中止となっているが、状況に応じて以前のように交流したい。	町内会に加入されている。自警団と繋がりを持たれ、交流も深められていたが、現在はコロナ禍により、日常的な交流を中止されている。今後は、状況に応じて以前のように、利用者が楽しみとなるような交流に努められる予定である。ホームだよりを年に4回、町内会、公民館、運営推進会議等に配布されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年4回、ホーム便りを作成、町内会の方々、公民館、運営推進会議委員の方々に配布している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、コロナウイルス感染予防の為、前年度より書面会議での実施だが、各委員からの意見、情報を取り入れて実践に繋げている。職員も議事録を確認、情報共有しサービスの向上に努めている。	運営推進会議は、書面で行なわれていた。事業所側からは、活動報告、利用者の現状報告をされ、各委員より意見や情報をもらわれ実践に繋がっている。職員は会議録を確認し、話し合いサービスの向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者の方に不明点、問題点などを相談、情報を頂いている。	市の担当者は、運営推進会議のメンバーであり、日常的に報告や連絡など、双方向のやり取りが行われている。また、事業所の実情やケアサービスの取り組みについて相談された。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体的拘束・虐待防止委員会」を設置 年1～2回の外部研修への参加。 月1回の職員ミーティング時に意見交換や研修に参加した職員が研修報告を行っている。 玄関の施錠については前面道路の交通量が多く危険防止の為、鳥取県より許可をもらい現在も日常的に施錠を行っているが天気の良い日などはドアを開放したまま玄関先で外気浴など行っている。	月1回の職員ミーティングの際に併せて、身体拘束についての報告が行われている。また、ケアが適正かどうかについて、高齢者虐待防止のセルフチェックリスト、虐待の芽チェックリストを活用し、意見交換や研修報告を実施されている。尚、玄関の扉は、前面道路の交通量が多い為、日常的に施錠されている。	
7		○虐待の防止の徹底	管理者、職員は外部研修で学び、内部研修で各職員に発信、意見交換を行いケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「成年後見制度」該当者が1名入居されています。保佐人様との意見交換や職員へ資料を配布し知識を高めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に家族様、ご本人様に施設内を見学して頂き質問への回答を行い、契約時、改定の際には十分な説明を行い納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や家族様来訪時に伺った意見、要望を職員ミーティングで共有、運営に反映させるよう努めている。玄関に意見箱も設置している。	以前は、家族会を年2回行なわれていたが、現時点では、コロナ禍により、未実施の状況である。しかしながら現在は、その代替え策としてリモート機器を設置し、利用者や家族等と会話できる環境が整えられているところである。また、今後において、庭先で餅つきのみでも行う行事の実施について事業所内で話し合うなど積極的に家族の要望や意見を運営面に反映出来るよう努められている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議で法人の方針を職員に伝え、管理者は業務の中で職員からの意見要望を聞き法人と相談し運営に反映できるよう努めている。	月1回、代表者が出席のもと、全体会議が行われている。代表者や管理者は、業務の中で職員からの意見や要望、提案を聞かれ、話し合いを持ちながら運営に反映させるように努められている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が職員個々の勤務状態などを代表者へ報告、職員がやりがいを持てるような就業環境、働きやすい職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修の実施、施設外研修、オンライン研修など積極的に参加してスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームネットワークの会、相互研修に参加。情報収集、意見交換を行いサービスの向上に繋げている。(現在、コロナウイルス感染予防の為、中止)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前と入居後直後にご本人様の考え、不安、要望を聞き取り、思いに寄り添い信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様の思い、困っている事、不安に思っている事を伺い、入居後のケアに活かすようにしている。月1回のお便り、施設への来訪時など日常の様子を伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にご本人、家族様に施設見学して頂くようにしている。要望を聞き本人様の状態を見極め、最善の支援、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様とコミュニケーションをとり興味のあること、出来る事を把握、職員間で情報を共有し、状況に応じた役割が発揮できるよう共に暮らしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の負担にならないよう状況に応じて協力をお願いしている。又、日々のご様子を手紙、メール、電話などで連絡して家族様との絆を大切にしよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様、家族様から馴染みの場所など聞き取りを行い、コロナ禍で外出、面会も難しい状況ですが、思い出の場所などへのドライブ支援を多く取り入れています。	利用者、利用者家族より馴染みの場所等を聞かれている。また、思い出の場所などへのドライブ支援や季節を肌で感じてもらえる行事等を多く取り入れられるよう努められている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様、一人ひとりの性格、好まれる事、得意な事などを把握、孤立しないように配慮し関わり合いの持てる支援を心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も面会やお見舞いを行っている。必要に応じて情報提供の連絡、家族様からの相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族様から以前の暮らし方の情報を頂いたり本人様とのコミュニケーションや行動の中でヒントを見つけるように努め、その人らしい暮らし方、生活が送れるよう取り組んでいる。	利用者のちょっとした会話や表情から気持ちを汲み取るよう努められている。また、意向の把握が困難な利用者については、利用者の家族より好みやそれまでの暮らし方等を聞き取り支援に活かされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人様、家族様から聴き取りを行っている。又、入居後のコミュニケーション、関りでの情報を記録し、職員間で共有、把握して支援に活かすようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの少しの変化も見逃さないように努め気付いたことなど管理日誌、介護記録へ記録、職員間で申し送り、情報の共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議での家族様の要望、職員ミーティングでの意見、アイデアを反映して計画書の作成、毎月モニタリングを実施して、その都度、見直しも行っていきます。	現状に添った介護計画となるよう、担当者会議での利用者家族の希望等を聞かれながら作成されている。また、毎月の計画書の作成及びモニタリングを実施され、気づいたことは直ぐにケアマネジャーに報告し、その都度見直しをし、現状に即した介護計画を作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	様々な気づきを記録し、連絡事項への記入を行い職員間で申し送り、情報の共有、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員ミーティングで意見、アイデアを出し合い状況に応じた支援方法を検討、対応にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館を利用して紙芝居、書籍などを借りて提供している。現在、コロナ禍のため地域行事への参加は難しいが、ドライブ支援を多く取り入れ閉ざされた空間の中での生活にならないようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様、ご家族様の希望を伺ってかかりつけ医を決め、受診時には日々の様子を連絡表にて報告し連携を図っています。又、家族様同行の通院が困難な利用者には往診や職員による受診の同行支援も行っている。	利用者、利用者家族の希望するかかりつけ医での受診となっている。受診の際には、利用者の日頃の様子を記入した連絡表を利用者家族に渡す等の支援をされている。また、同行が難しい利用者については職員が代行されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の常勤、非常勤職員なし。日々の体調管理、観察を行い、変化に応じて家族様、主治医に連絡して指示を仰ぎ、連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、情報提供を行い、入院中はソーシャルワーカーと情報の共有、様子を把握し、退院後の対応など医療機関との連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に家族様に説明し、ご理解いただきターミナルケアは実施していません。利用者様の状況に合わせて家族様とその都度、話し合いを行っています。主治医との連携も密にして施設で出来ることを職員でも話し合い支援している。	入居前に家族等に事業所で出来る事を説明し、理解を得られ、ターミナルケアは実施されていない。介護度が上がった段階で、特養等の申し込みを案内し、利用者の状況に合わせたサービスを提供されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの設置。定期的な研修で心肺蘇生法、救命処置法を職員全員参加で学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域自警団、東部消防の協力のもと利用者様と共に避難訓練を実施している。緊急時連絡網に地域自警団も含まれており協力体制を築いている。	年2回の避難訓練の他、夜間想定での訓練を日中実施されている。また、大雨警報発令時の「高齢者避難指示」に対応した訓練も行われた。今年にはコロナ禍の為、外部者の参加はなかったが、日頃から地域の自警団と交流し協力体制を築かれている。備蓄はある。	2Fの非常時避難経過について、再確認されたい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人様のプライバシー確保と尊厳を重視して、一人ひとりの思いに重きを置き、状況に応じたケアを心掛けている。	職員に「虐待の芽チェックリスト」アンケートを配布し、言葉かけや日々の対応について、振り返る機会を設けている。一人ひとりのプライバシーを尊重し、トイレ誘導の声かけ、排泄の失敗時には、他の利用者に気付かれない様、扉を閉めて対応し、尊厳を重んじられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションの中で思いを汲み取り、本人様の意志を尊重し、自己決定できるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様の生活リズムを把握し、体調など考慮しながら希望に添った支援を心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回移動理美容車(ハッピー号)で顔剃り、シャンプー、カットを利用して頂いています。又、本人様の好みやこだわりを尊重した支援を心掛けています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コミュニケーションの中で好きな物、食べたい物の聞き取りや、季節の食材を献立に取り入れるようにしています。又、メニュー紹介ボードへの記入や下ごしらえ、後片付け等も参加して頂いています。	利用者の誕生日に合わせたメニューや日頃の会話の中で希望を聞き食事の提供をされている。野菜の皮むき、下ごしらえ、配膳、下膳等出来る範囲で手伝ってもらいながら、準備、後片付けを一緒に行なわれている。ボードに記入したメニューを紹介し、皆で揃って食事を楽しんでいた。季節の旬の食材で干柿や干し大根作り、お月見団子、おはぎ等食事が楽しみなものとなる様工夫されていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医指示のもと栄養摂取量、水分量、食事形態など身体状態に応じて提供、支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合わせた口腔ケアを行っています。又、歯科往診時に指導を受けて口腔内の清潔保持ができるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの把握に努め排泄表への記入、必要に応じて声かけ案内や介助を行っています。パターンを把握して現在も布パンツを使用されている方もいます。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、個々に添ったトイレ誘導をされている。夜間のトイレ誘導や布パンツの種類を変えることで、リハビリパンツから布パンツに変更される等、排泄の自立に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便状況を把握して水分摂取、ストレッチ体操など参加の声かけと朝食時にはヨーグルトを提供し便秘予防を心掛けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週5回入浴日を設け、利用者のタイミング、ペースに合わせて安心安全に入浴して頂けるよう心掛けています。又、入浴を嫌がる事が多い方は入浴日以外でもタイミングが合えば入浴して頂いています。	入浴は、個浴で、利用者の体調やタイミングをみながら、週3回は入浴出来る様支援されている。拒否や体調の悪い場合は、清拭等で対応されている。	利用者が安全に入浴出来る様、浴槽の調整に期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣、状況に応じた対応し、室内の温度調整、過ごしやすい環境づくりを心掛けて支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の内容は直ぐに確認できるようにしています。又、処方薬変更などあった場合は、介護記録、管理日誌へ記録、申し送りを行い職員の周知徹底に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のコミュニケーションの中で興味のあること得意なことを把握して役割のある生活支援を心掛けています。又、季節を感じて頂ける行事を取り入れて気分転換して頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調、天候なども考えながら散歩やドライブ前には行先の希望を伺ったり、利用者の意向に添えるよう心掛けて支援しています。	コロナ禍で、外出が制限される中、天候やタイミングを計りながら、個々の外出支援をされている。家族の面会時に、施設周辺の散歩を一緒にしてもらわれたり、買い物や少人数でのドライブに出かけられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様が希望され、お金を所持されている方は2名おられます。家族様に了承いただき本人様が管理されています。買い物希望があれば家族様に相談し、立替払いなど対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて施設電話を使用して頂いたり、携帯電話を所持している方、親戚の方々とぬり絵ハガキで文通されている方がおられ、一人ひとりに合わせた支援を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは殺風景にならないように生活感を取り入れて、リビングには季節の飾り付けや壁画の展示を行い、トイレ、脱衣所には季節に合わせてセラミックヒーターの設置など居心地よく過ごせていただけるよう心掛けて支援しています。	共用空間は、清潔に保たれ、季節の飾りつけや利用者の作品を掲示され、テレビやBGMを流しながら居心地よく過ごせる様工夫されている。「1日の流れ」でお茶や食事の時間を決められ、午前は、脳トレゲーム等のリクリエーション、午後は自由に過ごす時間を設け、メリハリのある毎日になる様に支援されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士で過ごせるように食事テーブルの設置や自由に座れる椅子を配置して思い思いに過ごせるようにしている。又、身体、精神状態、性格などによって孤立しがちな方には職員が声かけケアを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、家族様に馴染の物を持参していただきテレビの配置など自宅環境に似ていて安心して過ごせる環境整備に努めています。	居室は、ベット、洗面台、クローゼット、エアコンが設置されていた。また、利用者の使い慣れた家具や布団、テレビ等が持ち込まれ、安心して過ごせる様に配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレへの案内板の設置、タンスには収納してある衣類や下着など分かりやすいように見出しを付けて分類するなど、自立した動作が増える支援を心掛けています。		